

めいあいへるぷゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願ひ続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めいあいへるぷゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、障害者のニーズを理解し、ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。

私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金 2023年度(第43期) 事業報告書

愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>



愛の輪が広がることを願って

ダスキン愛の輪基金は、国連で国際障害者年が定められた1981年に障がい者の自立と社会との共生を目指し誕生しました。今年で44年目を迎え、現在、主に二つの事業に取り組んでおります。

一つは、「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」であり、リーダーとして社会に貢献したいと願う日本の障がい者の方の海外研修派遣を行っています。帰国後、研修生は経験を活かし障がい者支援事業の運営、大学教授、パラリンピック選手等さまざまな分野で活躍されています。

もう一つが「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」です。

アジア太平洋地域の障害のある研修生を、日本の障がい者団体や施設で受け入れ、研修を実施しており、終了後、母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

両事業とも、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受けておりましたが、昨年より平時の運営ができる様になり、目的を持って、ひたむきに努力をする研修生の姿に喜びを感じております。

これらの事業活動は、多くの皆さまに賛同いただき、募金や寄付、そして会員としてお納めいただく会費等、皆さまの温かい支援によって支えて頂いておりますことを、心より感謝申し上げます。

ダスキン愛の輪基金は会員憲章に「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。」と記しています。事業を通して、一人でも多くの方々と、この想いをつなぎ、活動を通じて、人と人との愛の輪が広がっていくことを願っております。

今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金
理事長 **大久保裕行**



ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業



事業発足後、43年間で 538名の研修生を海外17カ国に派遣

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の 構成 (538名)

地域別(応募時)

北海道…9名	北陸…13名
東北…28名	近畿…106名
北関東…64名	中国…21名
南関東…59名	四国…15名
東京…129名	九州…44名
東海…50名	

障がい種別

知的障がい…77名
視覚障がい…120名
聴覚障がい…105名
盲ろう…2名
肢体不自由…211名
てんかん…10名
内部障がい…8名
精神障がい…4名
発達障がい…1名

海外派遣先別

アメリカ…410名
イギリス…32名
スウェーデン…15名
オーストラリア…12名
ニュージーランド…14名
ドイツ…11名
カナダ…10名
フィジー…8名
フィンランド…5名
イタリア…7名
ノルウェー…3名
デンマーク…5名
フランス…2名
フィリピン…1名
ロシア…1名
大韓民国…1名
コスタリカ…1名

第44期研修派遣生のご紹介

自分で設定したテーマで学ぶ 個人研修生

八木 郷太さん (肢体不自由)



研修国
アメリカ
研修テーマ
障がい者運動における権利の理解と主張
権利意識の必要性を伝えるための具体的な手法を学ぶ

NHK Eテレ「バリバラ」に登場

研修準備に奔走する様子をカメラが密着。第40期生とともに番組で紹介されました。

齊藤 美羽さん (肢体不自由)



研修国
デンマーク
研修テーマ
福祉先進国における障がい者に対する制度や捉え方を学ぶ

海外の福祉の今を知りたい

共生社会の実現に向けて、私ができることは何かを考えたいです。

宮本 悠衣さん (視覚障がい)



研修国
アメリカ
研修テーマ
視覚障がい者の社会参加に必要な支援体制のあり方を学ぶ

リアルに学び、経験したい

支援が必要な人と社会資源をどう結びつけるの？ その現場から学びたいです。

メンバーがひとつになって学ぶ ミドルグループ研修生 精神障害当事者会 ポルケ (精神障がい)



山田 悠平さん



相良 真央さん



堀合 研二郎さん

研修国
イタリア

研修テーマ
精神科病院の脱施設化、精神科医療と一般医療の統合、精神障がい者の政治参加についてのフィールドワーク実施

イタリアの先進的な取り組みをヒントに

病気や障がいでも絶望することなく、日本が今よりもっと偏見のない社会になるよう貢献したいです。



第40期 個人研修生

笠柳 大輔さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ、カナダ
【研修期間】2023年5月6日～2024年4月15日
【研修テーマ】障がい者運動におけるファンドレイジング



アメリカのファンドレイジングを学ぶ
研修は挑戦と発見の日々でした

アメリカでの研修は私の価値観を大きく広げてくれました。カリフォルニアのDisability Rights Californiaという全米ナンバーワンとも呼ばれる公的権利擁護団体では、エグゼクティブディレクターのアンディーから企業からのスポンサーシップ獲得について「企業はその団体にお金を出すのではなく、あなた自身に出すのだよ。彼らと敵対するのではなくて友達になりなさい」と教えてもらいました。私は活動資金を獲得することばかりに視点が行き、自分自身の在り方や友達のような関係を作ることは考えていなかったの、その言葉は目から鱗でした。この時間は、これからの私にとってかけがえのないものとなりました。



第42期 個人研修生

奥村 泰人さん
(聴覚障がい)

【研修先】フランス
【研修期間】2023年3月30日～2024年3月29日
【研修テーマ】海外の事例を実体験を交えて学び、日本のエンターテインメントでろう者が活躍できる場を広げたい



日本のエンターテインメントで
手話が当たり前になるよう先駆者を目指して

フランスではろう者俳優の演技を学ぶETU (École de Théâtre Universelle)に入学し、さまざまな実技や座学を学びました。ある講義でクラスメイトが演じているときに講師から言われた「私が見たいのは、あなたの手話ではなく、あなたの演技だ」というアドバイスが印象に残っています。言語(セリフ)を伝えるのではなく、観客に見せたい演技こそが舞台人として大切だと思いました。「演劇は一生勉強」と多くの講師に言われましたが、本当にそうだと痛感しています。幼い頃からの「ろう者・聴者が関係なく楽しんでもらえる作品を提供したい」という夢を実現するため、自分という俳優を磨いていきます。



第42期 個人研修生

鈴木 海人さん
(視覚障がい)

【研修先】アメリカ
【研修期間】2023年1月29日～8月31日
【研修テーマ】映画文化の先端をいくアメリカでバリアフリー上映の実態を探り、日本との比較を行う



バリアフリー上映を発展させるために
アメリカにおける音声ガイドを体験

映画鑑賞が趣味の私は、画面上の視覚情報を説明する音声ガイドに興味を持ち、バリアフリー上映の設備が整っているアメリカで、音声ガイドなどのアクセシビリティサービスを学びました。音声ガイド製作者育成セミナーで聞いた「最高のガイドは、聞き手がガイドの存在を忘れて映画に没頭できるものだ」という講師の言葉が印象に残っています。音声ガイドに興味を持つきっかけとリンクしたこの言葉は、これからも自分の核であり続けると感じています。研修前は、アメリカのバリアフリー上映のみが進んでいると考えていましたが、実際には日本から発信できることも多いと感じました。

第40期 ミドルグループ研修生(肢体不自由)
メインストリームインクルーシブ部

【研修先】イタリア
【研修期間】2024年2月12日～24日
【研修テーマ】インクルーシブ教育の実現

分けないという種をまき続ける



鍛冶 克哉さん

今回、イタリアで学ばせてもらった社会の共通認識として、「分けないという意識」の種をしっかりと持ち、これからも引き続き「最初の分離は一生の分離の始まり」をスローガンに活動していきたいと思えます。

イタリアの教育と自立生活の現状



真名野 枝里子さん

日本の介助制度やイタリアのインクルーシブ教育が進んでいるのは、当事者が声を上げ続け国に訴えた結果が今の環境につながっている、当事者運動が大きな影響を与えていることを改めて学ぶ機会となりました。

分離教育を受けてきた当事者から見たイタリア



数矢 雄さん

イタリアで出会った働く障がい者はみんなインクルーシブな教育を受けており、当たり前のように結婚をしている人や、障がいの有無に関係なく、生き生きと人生を謳歌している人たちの姿に大きな感銘を受けました。

第43期 ミドルグループ研修生(ろう)
がんばる映画プロダクション

【研修先】アメリカ
【研修期間】2023年10月10日～19日
【研修テーマ】ろう者・難聴者の映画業界への参入方法とそのマーケティングを学ぶ



今井 ミカさん

まるで冒険したかのような高揚感

今回の研修を通して語り切れないほどの学びや気づきがあり、その一つ一つがとても素晴らしい経験となっています。研修ではあったけれど、まるで冒険したかのような高揚感を胸に帰国できました。



今井 彰人さん

ろう俳優たちのプロ意識について

インタビューをして、アメリカのろう俳優たちはプロ意識が強いと感じました。きちんと役割を分け平等に仕事をしているので、チームワークの強みでスムーズに撮影できるのだと思いました。



牧原 依里さん

常に行動し、チャンスを逃さない

取材をさせてもらったろう者から「Don't wait(待つはいけない)、Take action(行動しろ)」と言われたことがとても心に残っています。ごく当たり前の事実が心が揺さぶられた10日間でした。



レオさん

15人へのインタビューを終えて

この研修は、想像を遥かに超えた濃厚で刺激的な10日間となりました。ろう者が自ら聴者の世界に飛び込むこと、表現することが一番大切だということ。まずはそこからだと思いました。

第43期 ジュニアグループ研修生(視覚障がい)

【研修先】アメリカ
【研修期間】2023年8月2日～12日
【研修テーマ】アメリカの障がい者アクセシビリティを学び、異文化体験を体験する



小松 愛陽さん

障がいを理由に憧れや夢をあきらめない

私の夢は子どもに寄り添う教員になることです。今回の経験を通して、子どもたちが障がいを理由に夢を諦めたりせず、夢に近づくために必要なことを一緒に考え、導ける存在になりたいと思いました。



酒井 響希さん

ホームステイを通してわかった大切なこと

英語でのコミュニケーションがすごく苦手でしたが、誰かと話すときに一番大切なのは正しい文法を使うことではなく、「自分の思いを相手に伝えようとする姿勢」だということがわかりました。



田中 桃華さん

心のバリアフリーが進んでいるアメリカ

アメリカには点字ブロックなどの視覚障がい者が歩きやすい工夫はあまり整ってなくても、困っている人を助けようという意識があり、心のバリアフリーが発達しているなど感じました。

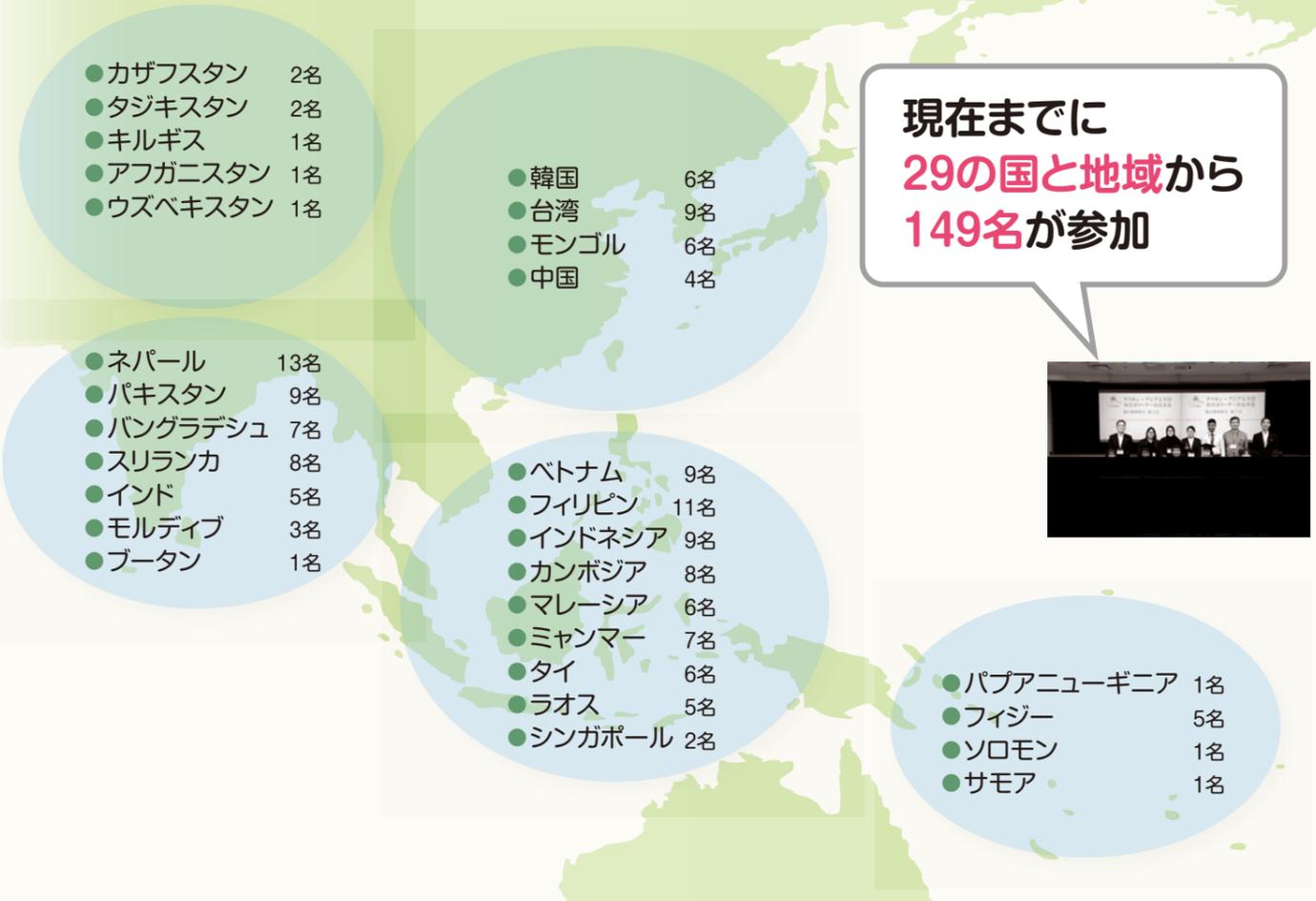


吉川 司さん

日本ではできないたくさんの経験を力に

たとえ視覚障がいがあったとしても、しっかりと必要なスキルを磨き、自分なりの目標をもって努力すれば、難しいと思われる仕事にも就くことができる可能性があるということを知りました。

1999年の発足より25年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業



第23期アジア研修生の成果発表会・修了式を開催



2024年7月12日、ダスキン本社にて第23期研修生の「成果発表会・修了式」を開催しました。当日は研修生3名だけでなく、研修先の施設関係者やホームステイ先のご家族も駆けつけられ、研修生を送り出させていただきました。

また、今回は6名のフォローアップ研修も実施。過去に研修生として来日した方に現在の活動を中心に報告していただきました。皆さんの流暢な日本語による報告を聞いて、参加された多くの方が感動されていました。

国連アジア太平洋経済社会委員会が決議した「アジア太平洋障害者の10年」の中間点にあたる1999年、愛の輪基金ではその要請に応じてアジア太平洋地域の障がい者福祉を向上させるために、「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」を開始しました。

この事業は、アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で日本の障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。

応募者138名の中から選ばれた第23期の3名は、2023年10月24日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが日本での研修に臨みました。



リエカ・アプリリア・ヘルマンシヤさん
(聴覚障がい)

- 年齢: 32歳
- 出身地: インドネシア(プカシ)
- 愛称: リエカ

Rieka Aprilia Hermansyah

母国インドネシアではIslamic Blind and Deaf Disability Centerに所属し、教師・コーディネーターとして活動しているリエカさん。複数の財団から協力や後援を受け、障がいを持つ人々にイスラム教育と知識を提供しています。日本では、ろう者がアイデンティティを醸成する方法やろう教育を発展させるためのアイデア・方法、日本のテクノロジーなどを学習。帰国後は、ろう児教育に関わっていくことを希望しています。



ハルシャニ・カウシャルヤ・マルホダ・デワヤラゲさん
(視覚障がい)

- 年齢: 29歳
- 出身地: スリランカ(マラベ)
- 愛称: ハルシャニ

Harshani Kaushalya Malhoda Dewyalage

ハルシャニさんは、スリランカにあるSri Lanka Council of Visually Handicapped Graduatesにボランティアとして所属。この団体では、視覚障がい者の生活のあらゆる面での自立、機会均等と完全参加を促進するために、養護、福祉、余暇、教育、キャリア開発、プログラムなどの活動を行っています。日本での研修は、障がい者のツーリズムや特別支援教室についてなどを学びました。帰国後は、大学の障がい学生支援室に勤務する予定です。



ジョヒルル・イスラムさん
(肢体障がい)

- 年齢: 30歳
- 出身地: バングラデシュ(ダッカ)
- 愛称: ジョヒール

MD Jahirul Islam

バングラデシュでTeam Inclusion Bangladeshという団体を創設し、事務局長を務めているジョヒールさん。障がい者が大きな可能性を持った人になれるような包括的な世界を目指して、インクルーシブな政策やプログラムの設計、実施を行っています。研修では日本の技術力や社会保障を学び、障がいのある人の生活を体験するとともに、さらには将来の活動につながるネットワークづくりも積極的に取り組んだそうです。



● 第23期生 主なスケジュール

2023年	10月	来日・開講式
	10月~11月	オリエンテーション
	10月~2024年1月	語学研修(日本語・日本手話)
	12月~2024年1月	ホームステイ
2024年	1月~3月	集団研修①
	3月~5月	個別研修
	6月	集団研修②
	7月	フォローアップ研修 成果発表会・修了式 帰国

全国各地で愛の輪啓発活動が行われ、 ご理解とご支援の輪が広がりました

研修修了生が催事でメッセージを発信

北海道札幌市「チ・カ・ホ」で 愛の輪の推進活動を実施

2023年9月24日、北海道の札幌駅前地下広場「チ・カ・ホ」にて愛の輪の推進活動が行われました。当日は、第27期個人研修修了生の広瀬有紀さんが手話を使って愛の輪の活動をアピール。また、シンガーソングライターの玉城ちはるさんのミニコンサートも開催されました。



広瀬有紀さん



シンガーソングライター 玉城ちはるさん

スポーツで未来へはばたく 研修生として講演会でスピーチ

2024年1月26日に北海道札幌市のDO-BOXで開催された「第4回 北海道スポーツ応援ネットワーク勉強会」で、愛の輪基金の取り組みについて紹介。第40期研修修了生の小貫怜央さんが、自身が経験したアメリカの研修で学んだ車いすソフトボールの奥深さと障がい者がスポーツをすることの意義を語られました。



小貫怜央さん



四国地域で愛の輪の集いを開催

四国アイランドリーグの試合会場に 愛の輪ブースを設置し募金活動

株式会社ダスキンがオフィシャルスポンサーとなっている四国アイランドリーグの試合に併せて、2023年7月2日に「四国地域ダスキン愛の輪の集い」を開催しました。会場では愛の輪ブースが設けられ、来場者に募金の呼びかけを実施。募金された方には抽選で選手のサイングッズなどがプレゼントされました。



「愛の輪」の活動は会員の皆さまの会費やご寄付によって支えられています

ソフトバンク「つながる募金」がご利用いただけます。

クレジットカード、またはソフトバンクご利用者なら、携帯電話料金と一緒にご寄付いただけます。

本年度実績 24件 **28,900円**



つながる募金

ソフトバンク「つながる募金」を通じて愛の輪運動へ寄付されます。

詳しくはこちらへ



ダスキンWeb会員サイト DDuetコイン募金ページの開設。

本年度実績 2,661件 **631,300円**



ダスキンの商品購入等で付与されるDDuetコインを愛の輪基金に寄付できるようになりました。

詳しくはこちらへ



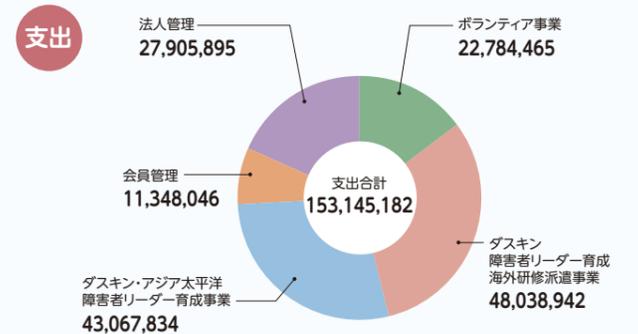
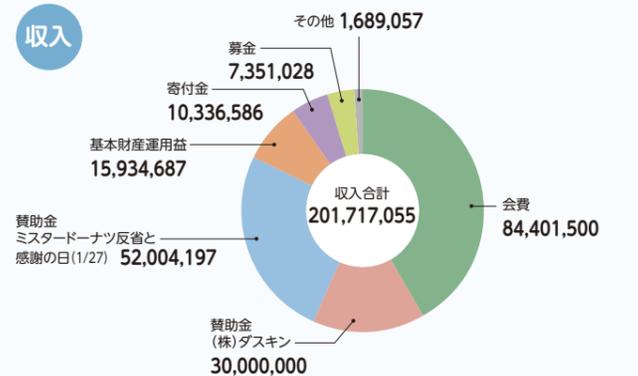
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益計	15,934,687
受取会費・賛助金計	166,405,697
受取寄付金計	17,687,614
雑収益計	1,689,057
経常収益計	201,717,055
経常費用計	153,145,182
当期経常増減額	48,571,873
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	48,571,873
一般正味財産期首残高	254,635,603
一般正味財産期末残高	303,207,476
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	11,532,200
指定正味財産期首残高	1,892,502,000
指定正味財産期末残高	1,904,034,200
III 正味財産期末残高	2,207,241,676

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	53,174,845
未収金	0
貯蔵品	959,030
前払金	0
仮払金	348,130
流動資産合計	54,482,005
【固定資産】	
基本財産	2,150,720,881
その他の固定資産	9,241,977
固定資産合計	2,159,962,858
資産合計	2,214,444,863
負債の部	
【流動負債】	
未払金	1,210,301
預り金	297,205
前受金	9,000
流動負債合計	1,516,506
【固定負債】	
退職給付引当金	5,686,681
固定負債合計	5,686,681
負債合計	7,203,187
正味財産	2,207,241,676

	第41期 2022.3.31	第42期 2023.3.31	第43期 2024.3.31
資産の部			
流動資産	201,642	229,422	54,482
固定資産	1,881,399	1,930,812	2,159,962
資産合計	2,083,042	2,160,234	2,214,444
負債の部			
流動負債	731	4,288	1,516
固定負債	11,510	8,808	5,687
負債合計	12,241	13,097	7,203
正味財産の部			
指定正味財産	1,839,496	1,892,502	1,904,034
一般正味財産	231,304	254,635	303,207
正味財産合計	2,070,800	2,147,137	2,207,241
負債及び正味財産合計	2,083,042	2,160,234	2,214,444

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

収入・支出 単位:円



会員数の推移 2024年3月31日現在 単位:人 (件)

	第41期 2022.3.31	第42期 2023.3.31	第43期 2024.3.31
法人会員	217	219	219
特定法人会員	437	431	424
エルダー会員	464	447	416
動きさん会員	1,586	1,535	1,488
個人会員A	1,378	1,340	1,395
個人会員B	2,678	2,717	2,606
個人会員C	5,976	5,794	5,300
小計	12,736	12,483	11,848
メイト会員	57	2	13
(累計)	174,228	174,230	174,243
合計会員数	12,793	12,485	11,861
(累計)	186,964	186,713	186,091

財団43年の歩み

第1期 1981年

- 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
- 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

第2期 1982年

- 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
- 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。

第3期 1983年 ●留学生9名を派遣。

第4期 1984年 ●留学生9名を派遣。

- 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



第5期 1985年 ●留学生9名を派遣。

第6期 1986年 ●留学生8名を派遣。

- 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。

第7期 1987年 ●留学生8名を派遣。

第8期 1988年 ●留学生7名を派遣。

第9期 1989年 ●留学生7名を派遣。

第10期 1990年 ●留学生10名を派遣。

第11期 1991年

- 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
- 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

第12期 1992年

- 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。
- 知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



第13期 1993年

- 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

第14期 1994年

- 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
- 研修派遣生13名を派遣。

第15期 1995年

- 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
- 研修派遣生10名を派遣。

第16期 1996年 ●研修派遣生10名を派遣。

第17期 1997年 ●研修派遣生9名を派遣。

第18期 1998年 ●研修派遣生7名を派遣。

- 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

第19期 1999年 ●研修派遣生9名を派遣。

- ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



第20期 2000年 ●研修派遣生8名を派遣。

第21期 2001年 ●研修派遣生9名を派遣。

第22期 2002年 ●研修派遣生9名を派遣。

第23期 2003年

- 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
- 研修派遣生11名を派遣。

第24期 2004年

- 研修派遣生12名を派遣。

第25期 2005年

- 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
- 研修派遣生11名を派遣。

第26期 2006年

- 研修派遣生12名を派遣。

第27期 2007年

- 研修派遣生12名を派遣。

第28期 2008年

- 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
- 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

第29期 2009年

- 研修派遣生16名を派遣。

第30期 2010年

- 研修派遣生27名を派遣。
- バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
- 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



第31期 2011年

- 研修派遣生19名を派遣。
- 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

第32期 2012年

- 研修派遣生13名を派遣。

第33期 2013年

- 研修派遣生9名を派遣。
- ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

第34期 2014年

- 研修派遣生14名を派遣。
- 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

第35期 2015年

- 研修派遣生5名を派遣。

第36期 2016年

- 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
- 研修派遣生7名を派遣。

第37期 2017年

- 研修派遣生8名を派遣。
- 「ミドルグループ研修」が加わる。

第38期 2018年

- 研修派遣生8名を派遣。

第39期 2019年

- 研修派遣生9名を派遣。

第40期 2020年

- 研修派遣生7名を派遣。

第41期 2021年

- 第41期生の募集はコロナウイルス感染拡大のため未実施。
- 東京2020パラリンピック競技大会の水泳競技において、第30期研修派遣生 木村敬一さんが、金メダルと銀メダルを獲得。

第42期 2022年

- 待機中の研修派遣生を含む5名を派遣。

第43期 2023年

- 研修派遣生9名を派遣。

役員・委員一覧



役員

(任期:2023年6月19日~2025年6月開催予定評議員会)

理事	理事長	大久保 裕 行	(株)ダスキン 代表取締役社長執行役員
	専務理事	大石 あかね	(株)ダスキン ミスタードーナツ事業本部ミスタードーナツ運営開発本部(MDカレッジ)部長
	常務理事	水 嘉 美 幸	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	山 根 明	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松 友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばいく 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀 子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	大 熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
	理事	田 門 浩	都民総合法律事務所 弁護士
	理事	小 川 美 樹	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	朝 日 雅 也	埼玉県立大学 名誉教授
理事	立 花 明 彦	(社福)日本点字図書館 館長	
理事	竹 内 克 人	ダスキン生産協栄会 理事長	

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)

評議員	評議員	永 原 秀 治	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	君 島 淳 二	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事
	評議員	佐 浦 隆 一	大阪医科薬科大学 医学部 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 教授
	評議員	池 口 誠	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	金 井 栄	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	山 崎 正 順	ダスキンレントオール・ヘルスレントコミュニティ会 理事
	評議員	山 本 貴 之	(株)ヤマヨフーズ 代表取締役社長
評議員	松 重 泰 子	(株)ダスキン 執行役員 品質保証・リスク管理部担当兼人事部長	

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)

監事	監 事	宮 田 直 人	(株)ダスキン 取締役CFO
----	-----	---------	----------------

(任期:2023年6月19日~2025年6月開催予定評議員会)

顧問	顧 問	山 村 輝 治	(株)ダスキン 会長
----	-----	---------	------------

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2023年4月1日~2025年3月31日)

青 松 利 明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	長 瀬 修	立命館大学生存学研究所研究員 インクルージョンインターナショナル事務総長
青 柳 まゆみ	愛知教育大学教育学部 准教授	福 田 暁 子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員
金 塚 たかし	大阪精神障害者就労支援ネットワーク 副理事長・統括所長	小 林 昌 之	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 主任調査研究員
小 林 洋 子	筑波技術大学 講師	平 下 耕 三	NPO法人自立生活夢宙センター理事長 全国自立生活センター協議会代表

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2023年4月1日~2025年3月31日)

寺 島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長	野 村 美 佐 子	NPO法人 支援技術開発機構 事務局長
山 口 和 彦	NPO法人 居宅移動支援事務所 TOMO 元事務局長	廉 田 俊 二	NPO法人 メインストリーム協会 理事長
河 村 宏	NPO法人 支援技術開発機構 副理事長	川 口 聖	国立民族学博物館 外来研究員
嶋 本 恭 規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事	茨 木 尚 子	明治学院大学 教授

愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2024年4月1日~2026年3月31日)

北海道地域	吉 川 哲 也	(株)ダスキンフロンティア 代表取締役
東北地域	稲 葉 廣 直	(株)アイウェイ イナバ 代表取締役社長
東京地域	相 澤 善	(有)エーゼット 代表取締役
北関東地域	鷹 義 久	(株)ダスキン土浦 代表取締役
南関東地域	渡 辺 信 義	クリーンスペース(株) 代表取締役会長
東海・北陸地域	岡 島 匡 志	三剛産業(株) 代表取締役
近畿地域	山 形 淳 一 郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	橋 詰 正 紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	西 岡 正 人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	深 堀 誠 二	(有)オークス 代表取締役